

アセットマネジメント部門

応募事例名

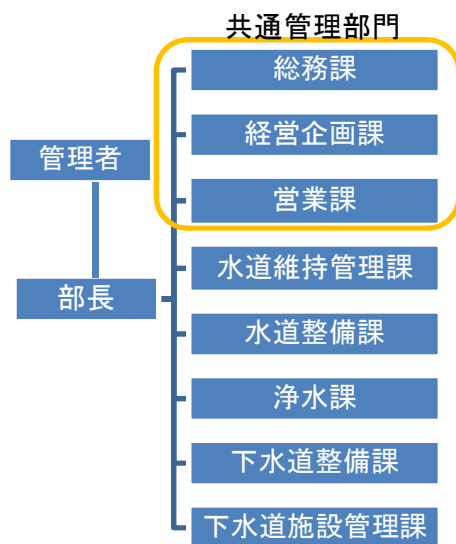
上下水道事業の組織統合による職員のエンパワメントと経営改革

応募団体名) 大分市上下水道局

応募事例の概要

平成30(2018)年4月に市長事務部局の下水道部と公営企業部局の水道局が組織統合した際、上下水道事業管理者の下に、施設別な縦割りではなく、共通する管理部門をまとめるなどした業務横断的な「上下水道部」を設置しました。一つ屋根の下で人と情報が行き交う組織をつくり、共に経営に取り組む組織運営を行っています。統合以来40本を超えるプロジェクトチームを立ち上げ、上下水道事業の課題に取り組むなかで職員のエンパワメント(成長)を図りました。経営戦略を策定したほか上下水道事業の経営改革が進み、組織力が強化されました。

フラットな組織



40を超えるPT(プロジェクトチーム)

山積みになっていた上下水道事業の課題を互いの事業の知恵を出し合い検討・解決！
<下水道> 汚泥燃料化事業の広域化、他事業との共同化、接続促進など

週1回開かれる所属長会議でチームの成果を共有、具体的な進め方を確認



成果

- ・職員手作りの経営戦略の策定
- ・下水道施設再構築(取組中)
- ・下水道の広域化(汚泥燃料化(取組中))
- ・下水道研究発表会への参加
- ・独自採用職員の増加



大分市上下水道経営戦略

PRポイント

組織統合の検討当初は、統合前の組織(別庁舎)のまま下水道部と下水道部の2部体制にすることも考えました。しかし、最終的に水道事業と下水道事業を垣根のないフラットな単一組織としたことで、両者のノウハウや技術の相互利用が図られ、上下水道のセクションを越えた職員で構成するプロジェクトチームを積極的に活用することで経営戦略の策定や経営戦略に掲げた各取組みの達成にむけた職員による新たな手法の提案を次々に実践し、成功体験を積み重ねて職員の成長を促しています。

こうして強化された組織力をもって、広域化や共同化に積極的に取り組めるようになりました。(全国的に類をみないPP手法を取り入れた集中浄化槽団地と農業集落排水事業との共同化、汚泥燃料化施設事業の県内広域化に現在挑戦中)